学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら THE TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
1 月 27 日号

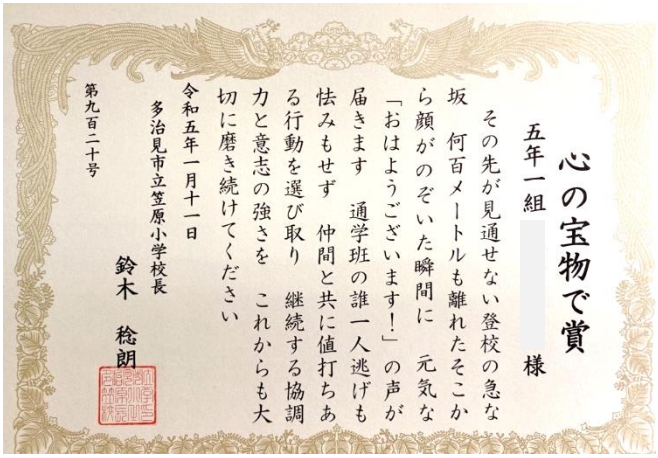
児童会：誰もが楽しい笠原小学校を創りあげていくために、思いやり・ルールを大切にしよう

正解のない時代を生きる

校長　鈴木　稔朗

厳冬の冷え込みは、体の芯まで凍みとおりますが、子どもたちは元気いっぱい。新年の抱負を実現しようと、挨拶、掃除、その他自ら決意したことに、強い思いで取り組んでいます。

＊＊



心の宝物で賞

五年一組　　様

その先が見通せない登校の急な坂　何百メートルも離れたそこから顔がのぞいた瞬間に　元気な「おはようございます！」の声が届きます　通学班の誰一人逃げも怯みもせず　仲間と共に値打ちある行動を選び取り　継続する協調力と意志の強さを　これからも大切に磨き続けてください

令和五年一月十一日

多治見市立笠原小学校長

鈴木　稔朗

第九百二十号

先日、西門から登校する、ある通学班の全員に「心の宝物で賞」を贈りました。

西門から北に下る坂道は、二百メートルほど先で急に傾斜を増し、滝の落ち口のようになって、上からも下からも先が見通せません。5年生のNA君を班長とする総勢5名は、ある時期から決意して、坂を上るに連れて広がる視野の中に、はるか先にいる私をとらえるやいなや、その距離を隔ててさえはっきりと届くほど元気な声で、自分たちから先に、挨拶することを続けています。班の全員が心を一つにし、それぞれの個性で精一杯、よき選択を決意し、実行し、継続する志の高さを誇りに思ってほしいと願い、全校放送で伝えました。

次の日は正門で児童を迎えました。すると、いつにも増して、多くの人が、カーブを曲がって私や領木教諭が視界に入った瞬間から、大きな声で何度も挨拶を届けてくれました。ほめられた仲間の姿をすぐに真似ようとする無邪気さ、その思いに学んで行動しようとする素直さや活力を心から愛おしく思いました。しかし、マスクはしているものの、密集しがちな状況で、何度も何度も、全力で声を張って届けてくれる挨拶は、感染予防の観点からは危うくもありました。そこで、心を鬼にして、その日の放送で次のように話しました。

「私は、あの放送で『どんなときも、どんなに遠くても何度も大声で挨拶することがいいことだ』と伝えたかったわけではありません。密になっているときに大きな声を出すことは、コロナの予防を考えるとどうでしょう。ある場面ではとても素敵な言葉や行動が、ちがう場面ではそうならないことがあります。『どんなに離れていても心を伝えるよ』という思いは学びましょう。ただし伝える方法は、そのときの状況やあなたの個性で決意し、選び取ってください」

難しい投げかけでした。素直に頑張ろうとしている思いや意欲に、冷水を浴びせてしまうことへの迷いやひるみもありました。しかし、今後彼らが生きるのは正解のない時代。感染症や環境問題等、予想や対応が困難で正解のない社会課題に対し、お互いの多様性を尊重しながら最適解を考え、導き、行動する機会になってほしいと願って語りかけました。

次の朝の登校時、はっきりと届くけれど、明らかに抑えた声で、会釈で、手を振ってと、「離れていても挨拶でその人に心を届ける」ことをあきらめず、自ら方法を工夫して挑戦する多くの児童の姿に、安堵すると共に深く感動しました。素直で優しい笠原小の児童は、仲間との生活を通して経験する喜びも戸惑いも、正面で受け止め、感じ、思考し、行動します。正解のない時代を生きる力を、着実に身の内に培っている彼らを、心から誇りに思います。